令和５年度　第１回中央特別支援学校　学校運営協議会　報告

１　日　　時　　令和５年５月 23 日(火)　　午前９時 30 分～11 時 30 分

２　会　　場　　本校　会議室

３　参 加 者

(1)　学校運営協議会委員

【委員①】静岡市あさはた緑地管理事務所　所長

【委員②】静岡県立こども病院　副看護部長兼教育看護師長

【委員③】静岡てんかん神経医療センター　療育指導室長

【委員④】静岡県社会福祉協議会　福祉企画部経営支援課長

【委員⑤】本校 PTA 会長

＊欠席　静岡大学教育学部　准教授

(2)　校内教職員

校長、副校長、教頭、事務長、各部主事、病弱・訪問主任、寮務主任、寄宿舎チーフ、教務課長、地域支援連携課長、防災課長

４　会議次第

(1)　任命状交付

(2)　校長あいさつ

(3)　自己紹介

(4)　学校経営方針説明

(5)　学校防災計画説明

(6)　校内参観

(7)　経営方針についての意見交換等

「会議風景」

５　学校経営方針説明要旨(校長)

(1)　学校教育目標「皆と共に 心豊かに たくましく 生きる力を育てる」

「皆と共に」自他を認め、尊重し合い、積極的に社会参加を目指す児童生徒。

「心豊かに」感動する心を持ち、自分らしく持てる力を精一杯発揮する児童生徒。

「たくましく」命を大切にたくましく生き、主体的に学ぶ児童生徒。

「生きる力を育てる」児童生徒の可能性を最大限に伸長する。

(2)　目標具現化の柱

◎スローガン　「伝え合う」「つながり合う」「分かち合う」

【安全・安心】「命と人権」を守る学校。「キラリ＆ホット」の視点。

☆一人一人の良い点を見つけ、皆で共有。

【生きる力を育む】卒業後の豊かな生活を目指した授業実践。

【地域や社会に開かれた学校】共生社会の実現。地域のつながりの価値を共有。

(3)　グランドデザイン

児童生徒の可能性を広げるために、地域との「つながり」ヒト、モノ、コトを教育資源として積極的に取り入れる。地域の皆様と、保護者の皆様と、関係機関の皆様と障害にわたって伝え合い、つながり合い、分かち合うことができるよう取り組む。

「校内参観」①

「校内参観」②

「意見交換」

6　学校防災計画説明要旨(防災課長)

(1)　本校の災害リスク(地震、風水害、火災、土砂災害等)について
　　→　孤立が予想されるため、非常食を３日分から５日分に変更

(2)　災害発生時のリスクについて
　　→地域におけるリスク、校内におけるリスク(物的・人的)

(3)　防災、防犯に関わる職員研修や訓練の計画・災害対策について
　　→　「命を守る」ための基本的な対策、ミニ訓練

(4)　福祉避難所について
　　→　平成 25 年度に静岡市指定

7　経営方針や学校防災計画についての意見交換　等(発言順)

(1)　委員②

・「キラリ＆ホット」の視点が、心がほっと温かい気持ちになる。認め合うことによって心のつながりが広がると思う。お互いの良いところを見つけていきましょうと、言葉で伝えることは大事で、共感が生まれたり、高まっていったりできる。
・校内の至る所で「キラリ＆ホット」を見かけた。一人一人を大切にしていることが伝わってきた。安全、安心につながっている。
・掲示物(あさはたレンコンや緑地公園など)から地域とのつながりを感じた。
・防災について避難訓練等は、一人一人の役割を示すアクションカードがある。咄嗟の時に初動含めて、どう動けるか、浸透できるようにしていきたい。
・ＢＣＰ(事業継続計画)策定については、義務化されており、策定済である。
・災害時は、この「地域で助け合う」ことが必要になる。

(2)　委員①

・中央特支の児童生徒が、あさはた緑地公園をよく利用してくれている。
・あさはた緑地公園の遊具は、中央特支や静岡北特支などのニーズを踏まえた『インクルーシブ遊具』となっている。遊具以外の施設においても、「こうするとより使いやすい!!」「こうなっていたらスムーズなのに…」という御意見やアドバイス聞かせてほしい。
・センターハウスには、緑地公園や麻機地区等をテーマについて学習の成果物を持っていてくれる学校があり、大変有難いと思い掲示している。情報発信の場として、

普段の子どもたちがやっていること、学校の教育活動の紹介をしてもらえると良いと思う。
・防災に関しては、地盤沈下については、定期的なチェックをしつつ修繕するための予算の確保にも取り組んでいる。

(3)　委員③
・初めての校内参観だった。大きく広い校舎でありながら、個々に合わせてきめ細やかな指導がなされていると感じた。全体や個別での学習等、職員が努力されていることが想像できた。
・防災の備蓄品の保管場所については、昇降口付近であったり、児童生徒が出入り自由な場所に置かれていたりして疑問に思っていた。説明を聞いて、非常時に持ち出しやすい場所というだけでなく、保護者が消費期限を見ながら、定期的に入れ替えしやすいためということから、あの場所においてあるという意味は理解できた。
・災害時には、限られた人員の中での対応することは難しい面もある。避難場所の確保や実際の対応等、具体的にしていく必要がある。地域の方々との連携・協力が必要となると思う。
・校内の段差が気になった。児童生徒だけでなく、教職員にとっても大変になると感じた。

(4)　委員⑤
・中部地区肢体不自由児特別支援学校PTA連絡協議会の情報交換の際に、北陸地震では、余震でガラスが割れ、避難経路を確保することが難しかったと聞いた。余震の不安やけが等も気になる。
・また、過敏のあるお子さんはパニックになりがちという話も聞いた。どのように実際場面に向け、訓練につなげていくのか大切になる。
・これまでの経験値から「慣れてくる」ことも期待できる。

(5)　委員④
・静岡ＤＷＡＴ(県災害派遣福祉チーム)は、ネットワークの施設関係団体に所属する福祉施設等の職員で所定の研修を修了した者の中から１チーム５人程で編制される福祉専門職チームである。
・チームーの登録は、２日間の養成研修を修了した方が登録できる。
・福祉のチカラで、(大規模災害時には)災害関連死等を防ぐとして、啓発活動も行っている。

(6)　本校から(校長)
・ミニ訓練を積み重ねている。ミニ訓練とは、校内の避難場所に避難することを目的とせず、発災時にその場でどう動くか＝自分の命を守れるか、職員は、自分も児童生徒も守れるか、を考えて動く訓練である。
・昨年度、火災報知機の誤作動があった時に、職員も児童生徒も落ち着いて対応できていた。日頃の積み上げは大事だと実感している。
・敷地内の段差等については、実状を伝えながら、段差を埋めている。